

ふるさと玉名市の今

「ふるさと対談」を開催！

玉名市では、市の将来像を『人と自然がひびきあう県北の都』と定め市政運営に取り組んでおります。
また、平成23年春の九州新幹線鹿児島ルートが全線開通し、新玉名駅も完成。今まさに、玉名市は時代
の大きな節目を迎え、未来に向けて大きく飛躍しようとしております。

市の総合計画におきましても、市民と行政の協働による地域づくりのため『みんなで進める協働のまち
づくり』を推進しております。

そこで、今回玉名市出身の在京の方々にお集まりいただき、ふるさとの思い出やふるさとへの思いを語っ
ていただきました。(平成20年8月31日 東京都：都市センターホテル)

今号で、対談の要約を掲載いたします。

ザ対談×ふるさと玉名

8月31日、東京で活躍される玉名出身者と「ふるさと玉名への気持ち」をテーマに対談し、みなさんにふるさと玉名を熱く語っていただきます。そのときの模様をお伝えします。



▲玉名温泉で心もゆっくりとリラックス

島津勇典玉名市長 東京で、熊本の玉名といってもなかなか知っている方が少ないように感じますが。
佐々木由紀さん 製薬会社に勤務していた関係で、営業の方は、熊本の玉名出身と言つと、玉名中央病院との答えが帰ってきます。福岡出身の方からは、玉名温泉によく行つていたと聞きました。
市長 植田さんは、国体以降、

玉名にはお帰りになつておられませんか。
植田いつ子さん つい最近帰りましたが、本の出版のために空港からのトンボ帰りでした。自分の小さい頃の思い出のお寺だとか山だとか訪ねました。
市長 小岱山の展望台からは、有明海を含め、玉名の全部が見えます。
植田さん 玉名村ですか。田んぼが広がっている風景を思い出します。
市長 今度、その真ん中に新幹線が来ます。広い田んぼの真ん中を通ります。
植田さん 菊池川も、私の大好きな川です。また、八幡様の楼門ですね。そして、お祭りです。お祭りは郷土色がたまります。
市長 この八幡様の祭りでも、毎年10月に節頭がありまして、順番で各地区が行つておりまして、多額の費用が必要で、なかなか地域での取組みが難しくなつてきております。今年は、途絶えさせるわけにはいかないと、玉名町の橋会というグループがやつてくれました。昔からの祭りもなかなか難しくなつてきています。

今後、いろいろなイベントの在り方についても考えていかなければと考えております。
福島靖正さん 祭りは郷土の中で生まれてくるもので、コミュニティ・共同体で継承されていくもの。このような現状は、コミュニティや共同体が弱つてきていることの裏返しであり、そこを今、ちゃんとやらないと、これから先はほんとに大変だと思えます。
市長 玉名でも集落のコミュニティが、だんだん壊れ始めており、その中で積み上げてきた文化というものがなくなつてつたあるということ実は事実です。残していかなければならないと思つております。
市長 玉名の思い出をお聞かせください。



▲小天天子宮の火渡り神事

植田さん 川の流れですね。菊池川は大きすぎず、小さすぎず、流れも緩からず速からずちょうど良い。しかし堤防にはがっかりしました。
昔は、野あざみが群生、菜の花・れんげが咲いていた記憶があります。また、玉名村から曲がっている菊池川の姿が良いですね。
市長 川の風景も随分変わりました。楽しみながら、子どもが川で釣りをしている姿もほとんど見ないようになりました。それでも俵ころがしなんかは残っています。また、そこに今度熊本県一の770メートルの菊池川大橋が架かっています。そこから見ると川の緩やかな流れを見ることができそうです。
田川義章さん 新幹線の高架橋・トンネルを見ましたが、玉名平野の風景が変わつてしまふ寂しい感じもしました。しかし、自分の仕事を考えると感慨ひとしおでもあります。子ども頃の玉名平野の黄金色の稲穂を思い出します。



▲繁根木八幡宮の節頭



佐々木由紀氏
（天水町出身）

昭和48年生まれ 製薬会社勤務
大学卒業後外務省入省、在外公館勤務。帰郷し熊本の日本語学校勤務を経て現職。



福島靖正氏
（高瀬出身）

昭和34年生まれ
厚生労働省精神・障害保健課長
入省後、埼玉県、和歌山県、熊本市などの地方自治体勤務を経て現職



田川義章氏
（玉名村（当時）出身）

昭和14年生まれ 設計事務所経営
橋やトンネル・海外の石油プラントなどの設計。

福島さん 天水の山から見る横島の風景が好きですね。



▲市内各所でホタルの幼虫を放流
(写真は岱明町開田川)

佐々木さん 私は、生まれたときから、ある程度のインフラが出来ていました。草枕温泉・広域農道から見る横島の干拓の田んぼがすごい綺麗で、玉名平野の田んぼの風景が大好きです。

田川さん 年を取ればとるほどふるさとに対する想いが強くなりま

すね。

市長 ところで、2011年春には、新幹線鹿児島ルートが全線開通し、新玉名駅ができます。市では、利用される可能性として次の4点を考えております。

①福岡と30分程度となり通勤が可能か。

②阿蘇への観光の出発点の可能性(阿蘇観光のルート・玉名から山鹿から阿蘇、熊本駅より便利)

③関西からの帰省・里帰り(玉名出身者に向けて大々的のキャンペーンをやりたい。若い人も含めてふるさとへの思いを感じてほしい。)ふるさと納税についても努力して

いくが、まずは「若い人のふるさとへの思いを大切にしていきたい」

④福岡などへの通学は可能か。

田川さん ふるさと寄附金(納税)については、若い人特にサラリーマンは確定申告になじみがないのがネックになるかも知れません。

市長 寄附をいただいた方には、物産が何かを贈ることも考えなければと思っています。しかし、寄附金(納税)の仕組みが面倒で、サラリーマンの方も確定申告が必要。一方、収入の多い方が対象との印象がありますが、必ずしも、収入が少ないからふるさと寄附金(納税)は出来ないというものでもありません。

田川さん この座談会をきっかけに、ふるさと寄附金(納税)について知りました。マスコミの報道等で知っていても詳細や実行の方法が分からない人も多いと思うので、ホームページを有効に活用するなどしてほしいと思います。

市長 基本的には、若い人は小学校から高校まで玉名で過ごし、就



▲「草枕温泉てんすい」から見た雲仙普賢岳



▲平成の名水百選に選ばれた尾田の丸池
(金峰山湧水群)

職を機によそで暮らす場合が多くなってきたように思います。親が暮らしているふるさとという思いを、一人でも多くの人もつた

だきたい。また、市としても、玉名が自分のふるさとであるとの誇りが持てるような玉名でありたいと思っています。

どんな玉名であってほしいか。玉名へのアドバイスをお願いします。

植田さん にぎやかでなくてもいいので、静かな町。祭りや伝統などを大切に、玉名の穏やかさ・緩やかさを大切にしていってほしいと思います。まさにそれが求められる時代が来ると思います。

福島さん 観光については、資源開発を長い間一定の方向で進める必要があります。裏川や高瀬蔵も含めて、継続していくことが重要で、行政だけでなく市民の合意が必要で、他の地方の方に玉名をもっと知ってもらうためにも、継続性が必要です。そして、例えば、黒川温泉が人が歩く空間を大切に

しているように、風情を大切にしたいと思っています。

医療・福祉については、都市・財政規模を考えても熊本市と同じような高度医療は考えにくい。今後、玉名市だけでは自己完結できないことを前提として、玉名市はどこまでの役割を担うのか、外部の資源をどう活用するか、等について、行政だけでなく、市民の了解・コンセンサスを得ることが必要になるでしょう。

もちろん、福祉関係では仕組み・システム上の工夫は十分にできると思います。玉名方式と言われるような、特徴あるものになることを期待しています。

田川さん ホームページを見ると、行政だけでなく市民の人たちも色んなことをやっていることが分かります。しかし、年配の方は、なかなかホームページを見ることがないように思いますので広報等でもっと知らせてほしい。

佐々木さん 水です。水が美味しい。天水の水をいつも自慢しています。みかん畑の花の時期(5・6月)の香りも周りの人に自慢しています。帰省したときは色んな土産を渡したりして、熊本に来てもらうように、地道な広報活動に頑張っています。



▲甘くて美味しい
天水のみかん



島津勇典
玉名市長

今回の対談で、皆様方のふるさとへの強い思いを感じました。
豊かな自然を大切にしながら、玉名市づくりに取り組んでまいります。



昭和30年生まれ
熊本県東京事務所次長(銀座熊本館に常駐)社団法人熊本県物産振興協会熊本支部長を兼務。企業誘致、観光、広報と店舗の運営に従事。



植田いつ子氏
(玉名町出身)

昭和3年生まれ
昭和51年から美智子皇后陛下のデザイナーを拝命。昭和59年ライブチヒでの「世界の美しい本展」入賞。エッセイ集等多数出版。平成19年デザイン活動50周年

市長 残念ながら、現在人口が72,000人を切り、人口減少地帯となっています。少子化の時代ですが、人口減少に何とか歯止めをかける政策を模索していかねばならないと考えています。

近年はなかなか新しい企業の誘致がありませんでしたが、今回、トヨタ系の愛三工業という工場の進出が決定しました。優秀な会社であり将来の発展が期待できます。地元の優秀な人材である玉名の若者が外に出て行かないような、玉名の中で仕事が出来るといった努力が必要です。

もうひとつは、九州看護福祉大学という大学院まである4年制大学があります。この大学は、多くの学生が全国から来ています。卒業したら帰っていきませんが、この人たちは玉名の空気を吸って卒業していくわけですから、青春の思い出としても、玉名のイメージが頭の中に残っているはず。



▲横島のいちごは生産量が全国で2位



▲今年で第60回になる金栗ハーフマラソン大会

市長 現在、市としては横島のいちごマラソンと金栗ハーフマラソンを開催しています。

いちごマラソンは熊本県内では参加者が4,000人を超える最大の大会となっています。一方、金栗ハーフマラソンは、玉名の宝である金栗先生の名前を冠したマラソンで来年60回目の節目になる。しかし、当時は新人の登竜門として始まった金栗マラソンではありませんが、各地で大会が増えて選手が集まりにくくなっています。また、他の大会は大きなスポンサーがついているが、金栗ハーフマラソンについては県民共催がスポンサーとなっているものの、市から800万円出しています。今後は、金栗先生を市の宝として大切にしながら検討していきたいと思っています。

また、玉名は、県の北部に位置し、福岡経済圏にも位置しております。高速道路のインターも玉名市ではないですが、近くに菊水・南関インターがあります。そして新幹線の駅もでき、交通の利便性という位置的な有意性があります。



▲マラソンの父 故 金栗四三氏



▲4000人を越える参加者でにぎわういちごマラソン

市長 玉名市は九州の人口中心で、九州の真ん中に位置します。今日、参加いただいた方々も、ふるさとを誇りにしていただくようにお願いをし、私たちもまた自慢にして頂けるようなふるさとを目指して頑張っていきたいと思っています。また、植田先生には、九州新幹線開通の際、1番にご乗車いただければと思っております。

本日は、貴重なご意見をありがとうございました。

市長 玉名市は、熊本の北部ではあります。玉名は、熊本の北部であるとの認識をもっています。

植田さん 玉名は、熊本の北部ではあります。玉名は、熊本の北部であるとの認識をもっています。

2011年春の九州新幹線開業へ向けて!

【新玉名駅】 (平成20年12月現在)

新駅は、「森の中の駅」をコンセプトに、「木立」をイメージした温かみのあるデザイン。駅には、県北地域をPRする「(仮称)観光交流センター」を設置します。現在、駅舎外部の鉄骨工事が行われており、本年秋には駅舎が完成します。

【新玉名駅前広場】

駅前広場は、各種イベントや憩いの場、駐車場などを整備します。現在、造成工事や駅前道路の工事を行っており、平成23年春の開業までに完成します。

【周辺整備】

県北各地へのアクセスや山鹿、菊池、阿蘇方面への観光の起点として、新玉名駅を核とした道路網の整備を行っています。



▲工事中の新玉名駅